



誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校
～全ての子どもに居場所がある学校づくり～
～学校だより 8月号 巻頭言～

令和8年8月25日(火)
発行：摂津市立別府小学校
校長 河平 浩一

～「当たり前の日常に感謝して」～

長い夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まりました。始業式の日、子どもたちが元気に学校へ戻ってきました。1学期の終業式に「夏休みの一番大切な宿題」として、「夏休みが終わった日に、元気な笑顔で学校へ登校すること」を子どもたちに伝えました。その宿題を守り、子どもたちが元気な笑顔で学校に戻ってきてくれたことを、教職員一同、心からうれしく思っています。

久しぶりに会う友達と笑顔で話す姿、夏休みの思い出をうれしそうに話す姿を見ていると、この夏休みに素敵な経験を重ね、大きく成長したのだろうと感じています。

そして、こうして今日、別府小学校の子どもたちが元気にそろって登校してくれたことは、決して当たり前のことではなく、とてもありがたいことなのです。

今年の夏、日本では大きな災害が相次ぎました。7月28日に発生した「令和8年熊本地震」では、最大震度7を観測し、多くの方が被害に遭われました。8月に入ってから避難生活を続けている方がいます。また、8月中旬には千葉県でも記録的な大雨となり、浸水などの大きな被害が発生し、亡くなられた方もいます。

私たちがいつものように家で過ごし、朝になれば学校へ行き、友達や先生と笑顔で過ごせること。それは決して当たり前のことではありません。今も災害によって不自由な生活を送っておられる方々のことを思いながら、こうしてみんなが元気に学校に集まることができたことに、改めて感謝したいと思います。

また、8月15日には、81回目の「終戦の日」を迎えました。私たちが子どものころと比べ、戦争や平和について考える機会は少なくなっているように感じます。だからこそ、私たち大人が意識して、世界で起きている戦争や紛争、そして平和について子どもたちに語りかけていく必要があるのだと思います。自分の命を大切にすること、友達の命を大切にすること、困っている人に寄り添うこと。一人ひとりが相手を思いやり、互いを大切にすることも、平和な社会をつくる大切な一歩となります。



さて、2学期は、運動会をはじめ、さまざまな学校行事や教育活動が予定されています。友達と力を合わせたり、自分の力を精一杯発揮したり、問題を乗り越えたりする中で、子どもたちは大きく成長していきます。私は、学校行事の結果だけを目標にするのではなく、その過程で子どもたちが「やってみた」「できた」「失敗した」「友達と一緒に頑張れた」という経験をたくさん積み重ねてほしいと考えています。一人ひとりが自分らしく挑戦し、仲間とつながりながら、「次もやってみたい」と思える2学期にしてほしいと思います。

もちろん、すべてが順調に進むわけではありません。うまくいかない日や、友達と意見が合わないこと、思うように力を発揮できないこともあるでしょう。そんなときにも、「ここにいていい」と思える居場所があり、困ったときには誰かに相談できる学校でありたいと思っています。

「誰もが楽しく幸せに6年間を過ごせる別府小学校」。その実現に向けて、2学期も子どもたち一人ひとりの頑張りを成長を認め、支えながら、教職員一同、子どもたちとともに歩んでいきたいと思います。

保護者の皆様、地域の皆様には、1学期に引き続き、本校の教育活動へのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。子どもたちの元気な声と笑顔があふれる2学期にしていきたいと思います。